

資料(7)

水沼辰夫「関西の一同志へ」(大正十五年1926年10月5日発行、『自由聯合』第四、第五合併号)

関西だけでなく関東でも類似の傾向が見られるので愚見を申上げる。ボクは大体において、関西方面の自由聯合会の人々が、ハッキリ、組合主義の下に組合員の増加を図るといふ君の意見には賛成です。組合主義を捨てた組合、そんなものが存在し得ようはずがない。量と質は楯の両面である。しかし、組合員の増加を図ること、思想を鮮明ならしむることとは時に一致するが、相反する場合の方があるに多い。組合員が増せば思想的には資本主義に囚われている人が多いから、理想を裏切られるような場合が多い。量に重きをおけば、危険性がある。しかし、積極的組合運動の一例としてあげられた、組合側の例会や、研究会には、思想団体の人々の出席を断わるということは、当然と思うが、そのうらには思想団体のある人々を排斥する意味を含んではいないのですか。

例会は組合の組織だから、組合員たらざる思想団体が組合員の承諾なく、列席すべきではない。そして列席することが、組合運動の不振を来すならば、思想団体の人々は遠慮すべきだ。その点で、もし、思想団体と意志の疎通を欠いていたならば排斥すると、誤解するかもしれない。

だから胸襟をひらいてよく諒解することが必要である。アミアン綱領で、その哲学的政治的意見を外部に発表するのは自由であるが、組合内に於いて、組合の意志に反する意見の発表は許さぬということは、それが組合運動の理想形態ではないということは言うまでもない。

現在の自由聯合は一面ボンヤリした点もある。それはハッキリした方がよいが、アミアン大会の決議の如き意見をもつ人の存在を妨げる要はない。

しかし、アミアン決議を自由聯合の標準とすれば、組合としては政治運動に反対だが、個人としてやる、という某々まで加入させることは好ましくないと考えている。(後略)

資料(8)

石川三四郎「サンジカリズムの話」(大正十四年1925年8月二十七日発行、印刷工聯合叢書)

一、
サンジカリズムとは何であるか？之をその文字の上から解釈すれば、組合主義ということである。「サンジカ」とはフランス語で組合という意味にはかならない。しかし、世間一般に伝えられているサンジカリズムとは、単に組合主義ということでは無く、もう少し特殊な意味が加わっている。しからばそれはどんなことであるか。之を一語に言え、労働組合が、単に労働者の利益を防護及び拡張するばかりでなく、自ら中心になって社会の改造を断行しようとする運動である。この点は英国の労働組合と大いに異なるところで、トレドユニオンは単に労働者の利益防護を目的とするに過ぎない。しかるに、サンジカリストの労働者は、もっと大きな目的を懐包しているのである。

カール・マルクスは、共産党宣言の中に、「労働階級の革命の第一歩は、平民をして権力階級の地位に登らしむるに在り、即ち民主主義の戦闘に勝を制するに在る」と言っているが、これがそもそも、共産党や、社会民主党が、労働者を迷路に導く第一歩であって、サンジカリズムの排斥する所なのだ。「民主主義の戦闘に勝を制す」というのは、議会に多数を得ること、社会民主党では解釈するのであるが、こんなことで労働者の自由も幸福も実現されないことは、普通選挙が行われてから五十余年の歴史を経過したヨーロッパの事実が証明しているではないか。また、共産党が「権力階級の地位に登」っても、労働者の境遇がさっぱり明るくならないことは、ロシアの実情が証明しているではないか。マルクスの社会民主主義と独裁的共産主義とは、労働者と労働組合とを階台にする政治家という遊食の徒に国家の権力を委ねようとするものである。是れほど危険な仕事はない。これほど労働階級を賤するものは無い。これほど労働者を侮辱するものは無い。サンジカリズムは即ちこの危害に眼覚めたフランス労働者の初めて思いついた運動である。

そもそも国家は民心を緩和し徴税を円滑に行なうために権力階級が設けた制度で、その国会内の頭数の請負と、勢力の転換とを調和的に行なおうとするのが政党的なものである。労働階級がこの中に入っていくのは、恰もブルジョアの好きな、シルクハットとフロックコートで労働しようと試みるようなもので、動きのとれなくなるのは必然のことではないか。適々、国会というシルクハットに馴じみ、政党的なフロックコートに慣れると、そのときは却って労働者の敵となつて之を迫害するか或は味方らしく扮装して労働者を誘惑する。ヨーロッパに於ける労働党出の政治家は何れもその好実例を示している。

シルクハットとフロックコートを着て労働するのは葬式馬車の馭者だけに止めておきたいものではないか。

二、サンジカリズムの成立によって、社会改造の中心は無産政党から労働組合に移った。そのサンジカリズムの唯一最上の模範とも称すべきはフランスの労働総同盟 *Le Confédération Generale au Travail* である。故に、私はこのフランスのCGTについていささか解説を試みたいと思う。ところが、このCGTが初めて大成されたるアミアン大会(1906年)に於て宣言せられた綱領は、サンジカリズムの主義精神をもっともよく表明したものだと言われている。それ故、私の解説の順序としては、この有名なアミアン綱領から初めることが必要にして且つ便利であると思う。アミアン宣言にはこう書いてある。

「労働総同盟は一切の政党政派を離れて、雇主と雇人とを消滅させる為に戦おうとする総ての労働者を団結する」(第二条)

大会はこの宣言を以て、資本階級が労働階級に加えた精神的及び物質的の圧迫と搾取とに対して叛逆する労働者の経済的分野に於ける階級闘争を承認するものと見做す。

大会はこの学理的主張を次の諸点によって正確にする。
サンジカリズムは、曰々の要求的事業として、労働時間の短縮とか、賃銀の増額とかというような即時的改良の実現によって、労働者努力の調整、労働者幸福の増進を追求する。しかし、このような行動はサンジカリズムの事業の一部分に過ぎない。サンジカリズムは資本の徴収を以てするに非ざれば実現することの出来ない完全な解放を準備する。サンジカリズムは、総同盟罷工を以てその活動の方法と認め、今日は反抗の団体である組合が、将来に於て、生産と分配との団体となり、社会改造の基礎となるべきものと見做す。

大会は、この日常的及び未来的の二重事業が、賃銀生活の地位より生ずるものであること、及びその地位は、哲学的、政治的の意見或は傾向の如何にかかわらず、総ての労働者をして、サンジカ(組合)という須要な団体に加入するの義務を負わしめることを宣言する。

その結果として、大会は、聯盟以外に於て各個人が哲学上、或は政治上の自己の意見に沿うた闘争に加入する絶対自由をみとめる。併し、それと同時に、その外部に発表する意見を組合内に注入せざらんことを要求する。

また、大会は、団体に関して宣言する。サンジカリズムがその最極の結果に達する為には、その経済的行動が直接雇主に対して行われねばならぬことを。そして苟くも加盟団体たる諸組合、諸団体は聯盟外にあり、また聯盟と併行して全然自由に社会改造を追求する諸党派に關係しないことを」

三、

このアミアン綱領によれば、サンジカリズムは第一に、資本家と賃銀労働者とをこの世から無くすることを目的とするものである。言いかえれば、賃銀労働によってのみ有益に使用し得る資本というものを、資本家から徴収してこれを社会の公用に供しようとするのである。しかし、サンジカリズムはこの最大の目的を達成するための準備に努力すると同時に、日日の要求的事業を持っている。即ち労働時間の短縮とか、賃銀の増額とかというような即時的の改善である。それは、前の第一目的に対すれば、第二義的の目的であるが、日日の要求として、また、第一目的の達成の準備的の事業として極めて緊要な事項である。

サンジカリズムはその第一目的たる社会の改造を達成する戦闘手段として総同盟罷工を行なう。労働時間短縮、賃銀増額のごとき日々の要求を貫徹する手段としては、大概、同盟罷工だけを採用するのであるが、社会の根本的改造の手段としては総同盟罷工を行わねばならぬ。総同盟罷工は、単なる同盟罷工とは異なつて、ブルジョア階級とプロレタリア階級との経済關係の徹底的断絶である。そしてブルジョア階級の為にする一切の産業の拒絶、労働階級自治の確立、社会生活要素の掌握である。約言すれば、総同盟罷工は完全なる解放を労働階級に捧げるものである。

次にアミアン宣言は「今日は反抗の団体である組合が、将来に於て、生産と分配の団体となり、社会改造の基礎となるべきものと見做す」と言っている。この点がまた社会党や、共産党と全然その性格を異にする所以である。そもそ今日国会はブルジョア階級が一方、民意の激発を防ぎ、他方、自己の為の徴税を円滑に行わんがための機関である。このカラクリの中に無産政党が入つて行つたとて、自分達が知らぬ間にブルジョア気分になつて、墮落する以外の何の得る処もないという事は、西洋ではすでに五十年來明白に実験されている処ではないか。普通選挙、無産政党の毒薬に気がついて、茲に真に労働者を解放するものは労働者自身でなければならぬと奮闘したのは即ちサンジカリズムである。だからサンジカリストはブルジョアが設定したる権勢の余光を蒙つて自分達の組合そのものを以て改造社会の基礎たらしめようとする。これは労働者の誇りではないか。労働者の自尊心の自らなる発露ではないか。苟もきたるべき新社会を自ら背負つて起とうとする労働者が、このくらいの自負心と實際上の用意がなくてはならぬ。

サンジカリストの組合が来るべき新社会の模型となるものとするならば、その組合生活には自由と正義とが円満に行われていなければならぬ。故にサンジカリストの組合は反抗の団体であると同時に、相互扶助の団体である。物質的互助団体であると同時に道徳的共励団体である。サンジカリストの組合は、過去の資本制度に対する破壊に徹底的に努力すると同時に未来の新社会の基礎となるべき大なる建設を怠らぬ。されば自由の楽園たるべき新社会の基礎に備えようとする労働組合が、自治の精神を以て一貫し、その組合が自由合意によって成立すべきは当然である。サンジカリストの組合は嚴肅な規律を導ぶ。けれどもその規律は各個人各組合の自発意志に基くものである。奴隷は生活の安全を得んがために服従を甘受した。独裁制はこの奴隷の前には權威を發揮し得ようが、苟くも一個の人間たることを意識する今日の労働者は独裁制の下に屈せんよりはむしろ死を選ぶ。

次にアミアン綱領には「哲学的、政治的の意見或は傾向の如何にかかわらず、総ての労働者をしてサンジカ(組合)という須要な団体に加入するの義務を負わしめることを宣言」している。サンジカリストは、賃銀労働者たる地位にある者は、その共同の自由のためにその共同団体たる組合に加盟するのは連帯責任を負うものと信ずる。各自の加盟の問題は、労働階級全体の利害に密接な関係を存するが故に連帯責任という新社会道徳はその加入を各自の義務と見做すのである。社会的自由の基礎条件たる義務と見做すのである。しかし、さればとて、サンジカ聯盟は「各個人が聯盟外に於て、哲学上或は政治上の自己の意見に沿うた闘争に加入するの絶対自由を」妨げるものではない。故にサンジカ聯盟に加入している者が、ただ個人として政治運動に携わろうが、また、どんな保守的な思想を懐包しようが、それは自由である。ただサンジカ聯盟は「その外部に発表する意見を組合内に注入せざらんことを要求する」、しかし個人としては自由であるが、各組合団体は他の如何なる社会運動団体とも関係することを許されない。但し、総聯盟そのものが特別の場合に他の団体と協定を遂げたときは別問題である。要するに総聯盟は、個人からも、組合からも聯盟からも、総聯盟に達するまで一貫して自治的精神原則によって成立している。

四、

私は以上に於て、サンジカリズムの原則を極めて簡単に説明した。これによって見ればサンジカリズムは従来の社会主義や共產主義とは全然方針を異にしている。サンジカリズムの理想は社会の改造にあるというよりは、むしろ新社会の創造にある。議会だの、政党だのという過去の遺物から全然離れて、自分達の新しい国を建てようとするのである。労働者自らが自分達の組合で、生産も分配も悉く処理して、一切の社会生活を、自分達が背負って起とうというのである。くどいようだが議会だの政党だのというものは、ブルジョアが必要に迫られて設けた十九世紀の遺物だ。黄金の臭味を以て彼等の妨害となるべき人道をも正義をもみんな腐してしまふ防禦誘拐の伏魔殿ではないか。言わば資本家が黄金色の糞をたれ敷らす雪隠のようなものではないか。この臭気を好んで近づこうとするものはヘエカウジ虫のような政治家より他にはない。

サンジカリストには労働者多数の団結を要求する。けれども多数は必ずしも力にはならない。見よ、無産階級はつねにブルジョアの幾十倍の多数であり乍ら、その意義の揚らないのは何の爲であるか。元より、そのしいたげられた貧困の生活が然らしめるのである。けれども幾十倍幾百倍という多数を擁しながら極めて少数なブルジョアの陣営に対してトキをあげ得ないのは何の爲であるか。暴虐の下に徒らに悲哀の睡夢を貪ぼっているのは何の爲であるか。それはお互の間に一致の感激が無いからである。吾等は自分達の理想国を創造するのだという自覚と感激とが無いからだ。サンジカリズムは単なる多数の団結を要求するばかりでなく、その同志の間につねに一致の芳烈な感激を養って行くことに努める。サンジカリストの創造的事業と戦闘的行動とは、つねに労働者の間に一致した希望と感激とを与えるものである。

しかしながら、この創造的事業と戦闘的行動とは必ずしも併行して発達するものではない。時期と場合とに従って自ら消長がある。例えば日本の経済界の景気の好かつた大正八、九年頃には労働組合の戦闘的行動に於ては頗る盛況を呈したが、創造的方面には殆ど見るべきものがなかった。今日の何れの方面も甚だ振わないようであるが、それは一般経済界の不況につれて労働者が受け身になった為であろうと思われる。されば今日は、先ず休養の心持にて主として創造的設備をすすめて行くべき時期であろうか。けれども戦闘的行動と創造的事業とは所謂唇齒輔車の関係で実は互に相関連して行くものである戦闘的行動が機会となつて、創造的事業が却つて拡張されることもあれば、創造的事業が鞏固になるに従つて戦闘準備も充実する。そしてこの両面の仕事をつねに停滞することなく発達せしむるには先頭に立つ闘士達が至誠を以て共に助け合い共に励まし合つて、宣伝と実行とに努力せねばならぬ。

こうして、同じ思想と希望を持った組合が或は地方的に聯合し、或は同業的または産業的の全国聯合を成し、そしてそれが更に全国的な総聯合を形づくり、地方農民も都市労働者も皆一団となつて新しい生氣に充ちた、自由と正義と友愛とに活きた大きな一つの労働国が創造されたと考えて見よ。そしてその国が自らの大会議と、生産手段と分配機関とを備えたと想像して見よ。そしてその偉大な労働国が総起ちとなつて胸振るいして地球の地軸からふるい起こるような活動を始めた暁に、今日のけち臭い国会だの政党だのブルジョアだのといふ古い残物などはゴミや埃のように眼にも見えず吹きとばされてしまふことを考えて見よ。吾々、今日の労働者ほど大なる使命と意義ある生活とを持ったものは、人類の歴史上未だ嘗つて無かつたと言えよう。こせこせするな！人間の美魂は自由の翼に乗つて大空を翔けり、人情の光明は自然の大道を行く万人の上を照している。確かりと大地をふんで起つ労働者の領分は無限に広いんだ。